

米國の小學校

グラムマースクール

在桑港 朝露生

『如何ですか、おさんどもも大分慣れましたでせう。今日はチト學校の御話をさかして下さいませんか。何ですって、キャンデーを、アハ、ハ、ハ、ハ、よろしい。坊やは大入しくして學校の御話をしたり伯父さんはナイスキャンデーを澤山あげませう』

『アハ、ハ、御尋ねとあらば一々御答申上りますでござひませう。エ。其方の郷貫姓名を名乗れと仰つしやるのですか。私事は尋中の國四丁目と五丁目目の角に住居いたし居り候ところ、この春海を一同とびにオー克蘭ド、コールスクールの六年級の椅子にかじりつき、唯今は切を以て七級に叙せられ居候事實正也』

『返濟の儀は八年級の終り、ハイスクールにてと云ふのですか、兎に角君は前途春秋に富んでゐるか

ら、まことに羨ましい。君のところの校長と受持の先生の名は何てですか』

『校長はミスター、デヨージ、フリックと云ふのです。七年級の先生はミス、ロビナ、フォグソンと申します。デヨージ先生は中々のやかましやでして、恐い顔して子たちを睨むばかりでは足らぬと見え、肩を捉へたり、胸をこづき廻したりして叱りこらすのです。日本ならさしひき閻魔先生の敬稱を呈するところですが、アメリカだけにダイナマイトとか煙火とか、それ相當の影帽子をいた、かせて置きます。フォグソン先生はやさしい先生ですよ、オールドミスは根性が悪いとは一般の評ですが、僕等の先生は中々親切です。校内第一だと云ふ評判です』

『さうですか、それは御仕合せですネ。チトその先生の授業ぶりを聞かせて下さいませんか』

『朝のありさまから御話いたしませう。僕等のやうなスクールボーイはランチと本とをかへてとば

とぼとやつてくるが、生徒のうち、少し遠いものは自轉車でやつてくるのです。いくら兩性混交教育だとして、教場外は全く隔離してゐます。僕等は碧い眼の腕白共と遊び戯れてゐるうちに九時になると、閻魔先生笛を鳴らします。第一の笛にて一年級の子どもは列をつくり、女兒だちも別のヤードにてそれぞれ級長のさしづのもとにならぶのです。この時鈴鳴りて一同直立不動の姿勢、第二の閻魔笛にて、組はそれぞれ別れ進行の仕度、校長の進めの一とことにてすゝみ出すのです。階段のあちこちに教師たちは立ちてゐて、監督して居るのです。この時は帽子を脱して左の胸にあて歩むものとしてゐます。教室に入ると、先生はオバコートコートを脱し帽子やらピンやらいろいろの装を解き教壇の前に立ちて、お早うと云ふのです。生徒一同聲をそろへてお早うミスファアグンと云ふこれが授業前の禮なんです。先生は胸に眼鏡を引ツかけて置き、時々高い鼻の上にチョット載せて

本を見るのです。一時間ごとに立ちて一同手をのばし、身をかゝめなどして、一寸と體操のやうなものをしていただきます。十時半に一度ヤードへ出て遊び十二時より一時までランチを食するため家にかへり、又はヤードにとゞまり、三時に全く放課となるのです。

『先生の云ふことは残らず解りますか』

『この頃どうやらこうやら呑みこめますが、はじめのうちは少しもわからず唯べら棒に早い言葉のやうにのみ聞こえ、癪にさわつてなりませんでした。一生懸命、辭書と首引で教科書ばかり讀んでゐたやうなものでした』

『學科は何々ですか、そして教科書を御しらせ下さいませんか、出来ることなら一年級からのをどうかネ』

『他の級のことはよくわかりませんが自分の科せられて居るのは十一科位です、詩の暗誦、これは中々厄介でして、吾々異邦人には最も有益でまた

最も苦しいのです、音楽、これはどうせわかりませんから、さいて楽しんで居るばかり、それでも何とも云ひませぬのが面白い、暗算と普通算術、地理、歴史、生理、これ等は悉く自修せねばならず日本流の講義などは殆んどないと云ふてもよいのです。先生は唯日課點をとるために活きて居るやうなもの、だから生徒はよく勉強しますよ、そして教科書は中々よく出来てゐますから面白いです。その外に自然研究といふ一科ありて、生徒の理科についての研究談やらのものを批評し教導することもあります。文典、これは中々厄介もの、毎日各種の文章の解剖やら何やら、七面倒くさくて閉口します。作文と談話もあります。先生の直しかた甚だ上手、鼻眼鏡のありがたさがマアこゝらあたりでせう。習字、これは當時流行のナチエラルスラント、文字を真直に書くのです。右にも左にも曲げずに。圖書は實物の寫生です。讀本は生徒にその日その日貸し與へ色々のものを讀ませ

ます。童話その他史傳などもあり、時には新聞や雑誌をよますこともあり、これが中々有益なやうかたです。趣味は毎日新らしいから、一同たのしみにしてゐるのです。圖書室には授業中の外は何時でもゆくことが出来、また家にもちかへることも自由です。

他級の科程はよくわかりませんが、書籍目録だけでも申上げて置させよう。

ブライマー并に第一讀本（加州教育課撰定）これは一年級、第二讀本、習字本二まで、これは二年級、三年級、第三讀本、音楽書第一、算術書第一位です。四年級は第三讀本、音楽書第二、地理書、習字本第四までといふやうなわけ。それから第四讀本、音楽書第三、算術書、地理書、習字本第五まで、これが五年級で、六年級は第四讀本、音楽書第四、算術書、地理書、文典、歴史、習字本、第六です。八年級は讀書は例の不定品、音楽書は六、代數書、幾何書、地理書、文典、生理書、歴

史、習字本七、これだけ叩きあげると卒業なのですが、英語の外は、何れも先刻承知のものばかり、つまりぬ想もいたしますが、珈琲は牛乳を加へて更らに風味を増すやうなもの、チト御苦勞様ですが、今年やつて見るつもりです。ア、大分ながくしやべつた、お菓子下さい、このキャンデーは甚だ不景氣ですナア」

「せいたく云ふてはいけません。サアお茶を入れましたよ君はどの科が得意ですか、チト御自慢をきかせようか」

「どれでもと申しあげたいが英語はまだものになつて居らんからナア、しかしあの科はみな中學校でやつたのですからどれでも優等です、通告表を御らん下さい。わけでも級中第一と吾もゆるし教師もほめて居るのは圖書です。一度薔薇の花の寫生をしたのが、ひどく教師の鼻眼鏡によく映じたと見え、各級をもち廻りて見せ、校内時ならぬ霞の音のやうに喝采せられたことがあります。

閻魔先生の像と老嬢閣下のとを徒ら書させるをみつけられ、大きく書くべきことを命ぜられて、叱られる、ことかと思ひしに、反つて面目を施したとがございます。今では校内誰れもジャップ呼ばはりするものがなくなりました。先生は美術家になれよと暮りにすゝめるのです。わたしも或は畫學校にゆかうかしらと思ふことがあります」

「オイオイ君、君は坪内博士の昔書かれた「少年の心に於ける宇宙の變遷并に危険なる宇宙」といふ文を読んだことがありますか。一度読んで御らん。大いに君を益するでせう。余りオダテに乗らぬやう御注意下さい。何ですかその、生徒の服装は一定してゐませうか。」

「服装ですか、さうですナア、別に制服も制帽もないやうです。男の子は大低オパーシヤーツにネクタイをかけコートはダブルボタンの一番多いやうです幼年者は半ずばんです。帽子はハットは極めてまれです、多くはキャップのふちをまくり

あげたるを頂いてゐます。女の子は髪を真中から
 わくるもあり、横からわかるもあり、うしろにて
 束ねたるも、兩脇に二岐としてさげたるもあり、
 リボンは色々ですが、衣裳と同色なるをとるらし
 いです。黒と赤とは御存じの通り配合は甚だ美的
 ですから、黒衣のガールのリボンはマア赤ときま
 ッてゐるやうなものです。中々美しいですよ、二
 ツ三ツ寫生してきて御目にかけてませうか。異國の
 なでしこも中々可憐です』
 『左りにコートを合せ、日本式の眼なら丁度倒
 まにつけそこなつたやうな、しかも未熟の葡萄の
 やうな眼の玉、蟻の女王様のやうな細腰で、テン
 デ繪にはならぬではありませんか。』

本年四月入學セシムベキ當校私費地理歴史國語体操ノ兩專修科生各三十名
 及保育實習科生八名ヲ募集ス志願者ハ來三月十五日マテニ當校到達ノ日取
 テ以テ願書ニ履歷書戶籍抄本ヲ添ヘテ差出スベシ尙詳細ハ一月二十一、二、三
 日ノ官報又ハ當校ニ就キ承合スベシ

明治四十年一月

女子高等師範學校

『あなたはさうばかり仰ツしやいますか蟻の女王
 に驚の聲あることを御存知ありますまい。毎金
 曜には談話會がありまして、ピアノの彈奏や唱歌
 の獨吟など、とても人の技と思はれぬほど上
 手なのがあります。私も學問の敵手になつてゐる
 のだから、はめたくはないが、覺へず喝采するこ
 とがあります。』
 『さうですか、何だか僕もグラマンマスクールに
 入學したくなつたやうだ。今日はまことに面白
 御話でした。どうですバアクへでも散歩させ
 るか。』
 『御供しませう。ア、もう夕景色ですよけふはサ
 ンデーだからカツくり遊べるワケだ。』(終)